

話題 其の18：ハッジ（メッカ巡礼）の犠牲祭

2月22日、イスラム教では、EID AL-ADHA（イード アル アダハ）でした。EIDは祭礼と訳すようで、ラマダンの終わった次の日もEIDだそうです。

EID AL-ADHAは、ハッジと言って、イスラム教徒が、年に1度、サウジアラビアにあるメッカへ巡礼する期間の最後の日に行われるそうです。

ハッジの期間、私の職場をはじめ、イスラム圏はハッジ休暇として、2月22日から25日が公休日となり、チュニジアに生活する友人を訪ねました。

チュニジアでもハッジ休暇で、多くのレストランや市場まで休業状態でした。

ただ、街じゅうのいたるところで、羊を殺し、捌（さば）くところに出会いました。

チュニジアから帰国し、空港から自宅に向かうタクシーの運転手の説明では、

『その昔、アブラヒム（Ibrahim）は貧しくて、神に捧げる羊が無かった。

そこで、彼は自分の子どもを神に捧げようとした。その子もまた健気に父の気持ちを受け入れた。しかし、神はその子の身代わりとして羊を下された。その物語は、アブラヒムの住んだメッカの地で、モハメッドによって祭礼となり、年に一度、貧しい人への食物の分配（貧困救済）、家族や友人達との絆（イスラムの連帯堅持）、メッカ巡礼者の数だけ羊を捧げるという経済効果等たくさんいいことがある。どうだ、イスラムは凄いだろう・・・。』

もう少し詳しく、今度は職場のファルークさんからの説明です。

『羊は1頭が80～100ディナール（15,000～18,000円）で貧しい人には買えない。

因みに、ラクダと牛は500ディナール以上もする。

ADHAの時は、お金に余裕のある者が羊を買って、その3分の1を家族で、3分の1を貧しい人へ、3分の1を友人や親戚に分ける。そのことで、家族、友人そして、イスラムの連帯がより強くなり、人々は貧しい人への救済を忘れない。』ファルークさんの場合、今回はイラクの人たちのために、羊1頭分のお金を寄付したそうです。

ラマダンはイスラム暦の9番目の月に、ADHAはイスラム暦の12番目の月の10日に行われるそうです。それが今年、西暦の2月22日でした。

因みに、イスラム暦はモハメッドが神の啓示を受けてから始まり、西暦の1年より、11日間短かく、1年は354日です。今年、1422年です。西暦の2002年3月15日が、イスラム暦の1423年1月1日にあたります。

今度は、文献から、『犠牲祭（ADHA）は、ズールーヒッジヤ（第12月）の8～10日のメッカ巡礼の最終日に行われる。この巡礼の参加者たちは、この日にメッカ郊外のミナーの谷で動物（羊、山羊、牛、ラクダ）の犠牲を行い、それを貧者と分かち合う。しかも、この日には巡礼に参加しない者も同様の犠牲を行う。この犠牲については、コーランには明確な説明は無い。・・・中略。ムスリムの間では、この犠牲祭では、神の命令によってアブラハムが我が子イシュマエルをまさに犠牲にしようとしたとき、天子ガブリエルがイシュマエルを動物と取り替えたとされる故事に習ったとされる』

ネパールのヒンズー教でも、年中で最も大きな祭礼「ダサイン」の時には、カトマンズの至る所で、水牛や山羊、鶏を生け贄（いけにえ）に捧げていました。神は生け贄が好きなのかな？ 私の想像では、収穫を祝う人々の気持ちと、年に一度くらいは貧しい人も、十分な栄養補給の必要性を祭礼として根付かせたのだらうと思います。神への冒瀆かな？
